

手を貸そう
LEND A HAND

IBARAKI ROTARY

Club Weekly Bulletin



RI第2660地区 茨木ロータリークラブ 創立 昭和34年(1959年)12月23日



事務局 大阪府茨木市上中条一丁目9-20 茨木商工会議所 TEL.(072)622-2255 〒567-0881
 例会 毎水曜日12時30分 いばらき京都ホテル 茨木市中穂積一丁目1-10 TEL.(072)620-2121
 会長/岡 仁一 幹事/掛谷 建郎 会報委員長/吉江 建郎
 委員/山口.山岡 木本

姉妹クラブ:台北西北区扶輪
 友好クラブ:インドネシア・チネレ

No.20 平成15年11月27日

本日の卓話
 11月27日(木)
 「ガバナー公式訪問」
 RI第2660地区 若林紀男ガバナー

例会記録

第2170回例会 11月19日(水)雨
 ロタリーソング「町に灯を」斉唱
 ゲストスピーカーご紹介
 黒川敦彦様 (阪大フロンティア研究機構)
 ビジターご紹介
 山田陽彦君(大阪西RC)
 根岸宏邦君(高槻東RC)

会長の時間

簡 仁一会長

14日・15日に開催されました地区大会に参加してきました。今年度の大会は例年と違い、分科会は四つのNPO・NGO・ボランティア団体の講演、本会議はNHK大阪ホールで、記念講演は「プロジェクトX」の今井チーフプロデューサーと、全体の印象としては地味な感じを受けた会員の方も多かったと思いますが、個人的にはシンプルで良い大会だったと思います。さらに登録料の一部から分科会の四つの団体へ総額260万円以上の寄付がされたことも良かったと思います。

これからのロータリー活動も無駄な費用は出来るだけ

出席報告

第2170回例会			前々回(第2168回)		
会員数(免除)	出席	欠席	出席率	欠席	補正出席率
34(12)	17	5	77.27%	1	95.45%

省いて、必要なことに資金を集中する、取捨選択の時期に来ているのではないのでしょうか。

幹事報告

掛谷建郎幹事

1、例会変更(北摂11RCの例会変更)

吹田西RC:12/15(月)19:00~

クリスマス家族会 於:帝国ホテル大阪

2、RI及び2660地区連絡事項

1)米山奨学会2004年度4月採用クラブ米山(CY)奨学生募集について

3、茨木市、他RCよりの依頼事項

- 1)交通安全協会よりFAX通信
- 2)市より安慶市訪問団歓迎会への出席依頼
- 3)市・社会福祉協議会より評議員候補者の選考にあたる選考委員会の公示について

委員会報告

ロータリー財団寄付報告

笠原会員よりいただきました

本日までの合計 307ドル

卓話

「大阪大学との産学連携で新製品開発」

大阪大学フロンティア研究機構 黒川敦彦氏

大木会員よりご紹介

私の会社(摂津水都信用金庫)では、15年ほど前から、起業家支援に力をいれています。また、大学の中からベンチャーアイデアが出るよう、日刊工業新聞との共催でキャンパスベンチャーグランプリというものを実施しております(1等100万円)。

また、5年目になりますが、ビジネスマッチングフェアといいまして、いろいろな中小企業に自社のデモンストレーションして頂く一方、自分の所でほしいアイデアや情報を求めるという出会いの場を作っております。そんなことで今日は黒川君をお呼びしました。黒川君は、大阪大学を卒業後、大学に残り、これら交流のため縦横に活躍、ひたすら大学の中からベンチャーアイデアが出るのを下支えしている人です。

<卓話概要>

私が大阪大学を中心に活動してきた中で、大学と組んで新しい商品の開発が出来たプロジェクトの紹介と、そんな活動が少しでも皆様のビジネスの役に立てばと思ひ、お話をさせていただきます。

大学内では何件かの組織に席をおいていますが、活動の一つは、大阪TLO、これは最近はやりの技術移転機関と言うものです。大学が独法化を迎え、産学連携が注目される中、大学における知的財産、メインは特許ですが、大学の先生も特許を取って、それをビジネス化したいとか、企業と組んで製品化してこれを有効に使って、社会的貢献を果たしたい、それが経済的にも個人的にもリターンが帰ってきて、市場が活性化されるようになる、そんな研究者と社会との橋渡しをさせて頂いております。

具体的には、研究者が特許を出したい場合、これをサポートしたり、事業化してもらえ企業を探したり、ベンチャーを立ち上げる場合は、マーケティングのお手伝い、プロジェクトマネジメントのお手伝いをしています。

事例) 超硬工具メーカーの例：自社の強みを生かして、新規事業を起こせそうな技術がないか、大阪大学に相談。1年半の共同研究の末、事業化に向け進んでいる。(歯科用インプラント手術技術開発)

(事例) 産業用ロボットメーカーの例：マッチングフェアに出展。大阪大学の研究者から、こよう実験用ロボットを作れないかとの持ちかけがあり、共同研究に発展。補助金を獲得し試作機完成。本年12月製品販売開始。(たんぱく質の結晶化ロボットの開発)

ところで、「大学と組むと補助金を取りやすい」ことをご存知でしょうか。

各官公庁が連携し国の研究開発予算の一部を技術開発力のある中小ベンチャー企業に重点的に補助金を配分するように義務つけた制度(日本版SBIIR)があり、国からかなりな予算が出ております。現在8省庁が制度を持っており、ホームページにて紹介されていますのでご参照下さい。

こよう補助金を取る時、大学と組むと取りやすく、私の事例では100%補助金を獲得しています。

産学共同研究成功へのポイント

信頼できる研究者との協力。

目標を定め、しっかりとした戦略を持つこと。

あきらめないこと(プロジェクトの目標がしかりしているならあきらめない)

自分だけが特をするというのではなく、関わった人がみな特をする枠組み作り(信頼作り)をすること。

共同研究へのアクセス方法

茨城商工会議所のホームページに大阪大学への技術相談窓口のリンクがある。

大阪大学先端科学技術共同研究センター(阪大自体が窓口を開いて言います)で無料相談を受けています。

黒川個人への相談。この場合、無料と言うわけにはいきません(月10万円+成功報酬)。

摂津水都信用金庫、あるいは摂津さんが地元と作られたシンクタンク(株)大阪彩都総合研究所にご相談していただくのもよいと思います。

ニコニコ箱

ホームクラブ皆出席

黒川君に卓話をお願いして

日野岡副 S.A.A

中江

大木

本日計 12,000円

累計 992,309円

次回卓話

「クラブ創立記念日」

簡 仁一 会長

